

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年4月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2022年4月12日～4月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 127社
- 回収率 63.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の4月の状況を見ると業況DIは、前月より3.7ポイント改善の▲24.4となった。

2017年9月以来56ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲26.8、当月と比べ2.4ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2021年 11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2022年5月～ 2022年7月
業況	▲33.4	▲23.0	▲25.2	▲35.4	▲28.1	▲24.4	▲26.8
売上	▲15.4	▲6.3	▲10.0	▲26.8	▲15.9	▲17.4	▲21.3
採算	▲35.8	▲21.4	▲27.5	▲33.9	▲29.8	▲29.1	▲32.3
仕入単価	▲65.1	▲65.9	▲68.7	▲68.5	▲74.2	▲78.7	▲71.7
販売単価	13.0	8.7	13.0	14.2	18.2	22.0	20.5
従業員	21.1	23.1	23.7	21.3	28.1	25.2	25.2
資金繰り	▲11.3	▲6.3	▲11.5	▲22.0	▲18.2	▲15.7	▲19.7

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2021年 11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2022年5月～ 2022年7月
建設	▲43.4	▲32.2	▲27.6	▲35.7	▲34.5	▲27.6	▲31.1
製造	▲41.4	▲26.7	▲9.7	▲23.3	▲6.9	▲22.6	▲29.0
卸売	▲22.2	▲7.4	▲28.5	▲35.7	▲30.0	▲28.5	▲21.5
小売	▲26.7	▲23.5	▲44.4	▲44.4	▲38.9	▲22.2	▲33.3
サービス	▲27.3	▲25.0	▲24.0	▲43.5	▲34.6	▲19.1	▲19.1

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・技術者 5 名の退職による人材不足が最大の問題となっている。設備投資として新社屋建設に当たり、鉄筋・生コンクリートの高騰と資材全般が値上がり傾向にあるため、積算額が跳ね上がる恐れを感じている。（総合工事） ・工事量は昨年と比べ先月に引き続き若干ではあるが減少傾向にある。また、原油高やコストプッシュによる物価上昇が経費増大につながり、売上単価に転嫁できにくく利益に対し悪影響を及ぼしている。ポストコロナ禍やロシアのウクライナ侵攻などを鑑み、景気の先行きは不確実性が増してきたように感じる。なお、人材については不足気味で即戦力（資格保有者）と将来を見据えて若い人材の確保を積極的に進めたいと常に考えている。（設備その他） ・工事受注が例年より鈍化している。資材の高騰は大きく、売上減少につながっている。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアのウクライナ侵攻の長期化で原材料、資材等、仕入価格が上昇。今後、販売価格の見直し等で収益の改善につなげたい。（食料品） ・資材の値上げが加速している。昨年すでに値上げされていたものも今年また値上げの要請がきている。入札や見積合わせでは材料コストの上昇が販売価格に転嫁しづらく苦慮している。（印刷・出版） ・原材料高騰の影響を受け価格改定を 4 月より実施。駆け込み需要による売り上げの増加がみられた。その反動が今後どう出るか、受注状況を慎重にみていく必要がある。（家具・木材） ・原材料（鋼材）単価の上昇が止まらず、更に上昇中。先が見えない。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・上海のロックダウンなど中国国内のゼロコロナ政策により生産の遅れが顕著となっている。また原材高やコンテナ不足もあり流通が不安定な上に市場が値上がった売価についてきていない。今後の売上は苦戦するとみている。（繊維） ・従来のオンプレミス型のクライアントサーバーシステムを見直すなど、IT に関する基盤刷新プロジェクトを開始した。（飲食料品） ・昨年から資材単価の上昇が続いているため販売単価を上げたいが、なかなかスムーズにいかず採算が悪化の状況。主要資材の一部の入荷が大幅に遅れており、入荷未定の状況が続いている。（機械鋼材） ・灯油の価格について、原油の高値が続く中、円安も進んでおり当面の間、現在の価格で推移すると思われる。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・4 月に入ったが来店客がそれほどなくライフスタイルがコロナの影響により変化があるようだ。顧客には来店を促す為に SNS にて取り扱い商品情報（新商品を含め）を告知し売上アップを期待している。（衣服身回品） ・週末は少し人の動きがある様子だが、GW を含め先の見通しが立たない。感染者も増加しているため先行が不安。（食料品） ・仕入れ商品の掛け率変更や値上げが相次いでいる。依然として来店者数が少なく売上が低い。（その他） ・中古自動車の仕入れ価格の上昇が大きく利益が厳しくなっている。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ影響で道内の旅行客の減少による売上減。経営が非常に悪化している。（理美容・クリーニング） ・コロナが長引き設備投資の計画も立てられない。（ホテル・旅館） ・労務単価の上昇に伴い、給与の引上げを行ったが価格競争が厳しくなっており、採算の下落が予想される。（その他） ・少しずつ売上は上がって来て一安心だが、原材料の値上がりが続き厳しい状況。（飲食） ・コロナ感染症の行先は不確定な状況も回復の兆しを感じられる気配は出てきている。過度に人の動きを制限すべき状況でなければコロナ前の 80%程度までの売上回復を期待する（現状はまだ 70%～75%）。資金繰りの厳しい中で従業員にも苦勞をかけているが今が踏ん張りどころ。経費削減施策も原油価格の高騰で吹っ飛んでいるが、地道に継続することが不可欠と考えている。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI10.3 ポイント改善、採算 DI18.8 ポイント改善、仕入単価 DI 横ばい、販売単価 DI6.9 ポイント改善、資金 DI10.4 ポイント改善、従業員 DI3.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、総合工事 8 ポイント、設備・その他 2 ポイント、建築業 5 ポイント改善となった。前年度比工事受注量 10%増、採算増となった。今年度は、前年度並みの受注量を見込んでいるが、資材価格高騰により利益率が減の予想との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI33.6 ポイント悪化、採算 DI28.8 ポイント悪化、仕入単価 DI3.8 ポイント悪化、販売単価 DI4.2 ポイント改善、資金 DI4.6 ポイント改善、従業員 DI0.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 15.7 ポイント悪化となった。業種別では、食料品が 14 ポイント改善、印刷・出版 62 ポイント、家具・木材 14 ポイント、金属窯業他 8 ポイント悪化となった。資材関係（木材、石油精製品）の値上がりが続いている。木材は一部入手が難しいものもある。4 月より自社商品の価格を値上げした反動で受注が落ちているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI4.5 ポイント悪化、採算 DI8.3 ポイント悪化、仕入単価 DI1.7 ポイント悪化、販売単価 DI3.3 ポイント改善、資金 DI7.6 ポイント悪化、従業員 DI8.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 1.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 18 ポイント、機械鋼材 21 ポイント悪化、繊維・衣服等 10 ポイント、その他 27 ポイント改善となった。仕入単価の上昇がいつまで続くか心配との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI5.6 ポイント改善、採算 DI22.3 ポイント改善、仕入単価 DI22.3 ポイント悪化、販売単価 DI11.0 ポイント改善、資金 DI5.6 ポイント改善、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 16.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、食料品横ばい、その他 29 ポイント、自動車 20 ポイント悪化となった。仕入単価の上昇、客単価に転嫁しきれていないとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI19.4 ポイント改善、採算 DI9.0 ポイント改善、仕入単価 DI1.7 ポイント改善、販売単価 DI10.3 ポイント悪化、資金 DI1.5 ポイント悪化、従業員 DI5.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 15.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 5 ポイント、飲食 8 ポイント悪化、理美容・クリーニング横ばい、ホテル・旅館 25 ポイント、整備業 20 ポイント、運送 83 ポイント改善となった。新型コロナウイルスによる影響との声も寄せられている。</p>